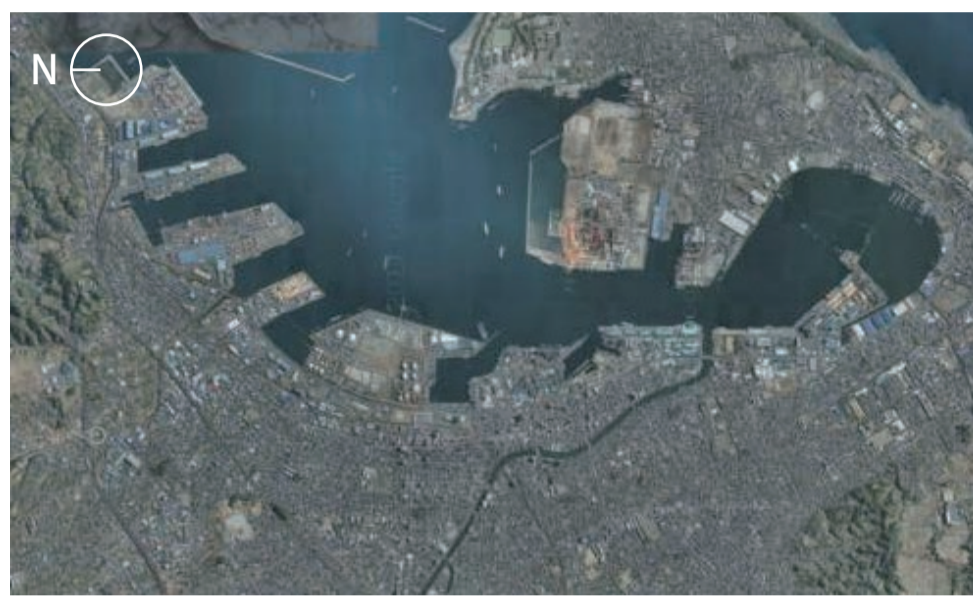


巴川の川湊として始まった清水の湊。港湾施設の近代化後に活気があふれた波止場や日の出埠頭は、港の中心がコンテナ埠頭に移ると活気を失った。現在の日の出地区は物流事業者が出入りする、地元住民にとっては馴染みの薄い場所であるが、石造倉庫群や大型船舶が往来する港の風景など、清水ならではの魅力を味わうことの出来る場所である。

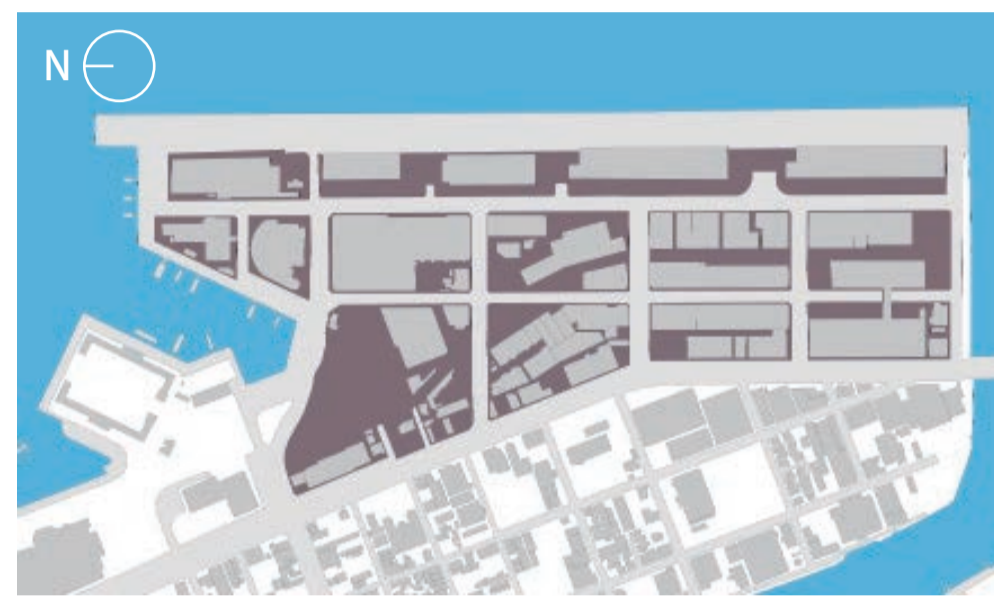
Members
 assistant prof. Takefumi Kurose
 M2 Yurie Endo
 Fumihiko Omori
 Takami Kitagawa
 Aya Matsumoto
 M1 Takashi Koshimura
 Takuya Hagiwara

清水プロジェクトの取り組み

清水 PJ チームでは、活気を失った港湾地区の再生・利活用に向けて静岡市清水区を中心に活動を行なっている。2011 年度は日の出地区を中心に清水港の空間資源調査を行った。2012 年度は更に調査を進めると共に、地元の理解を深め、利活用への関心を高めるイベントを積極的に行った。



▲静岡県静岡市清水区周辺



▲清水港日の出地区

みなとの再生に向けて

2012 年度の活動

- 4月 第1回現地調査
- 7月 波止場通りヒアリング
石蔵の実測調査
- 8月 子ども向けWS
- 11月 ミナトブンカサイ
- 12月 巴川調査
- 3月 大分・広島事例調査

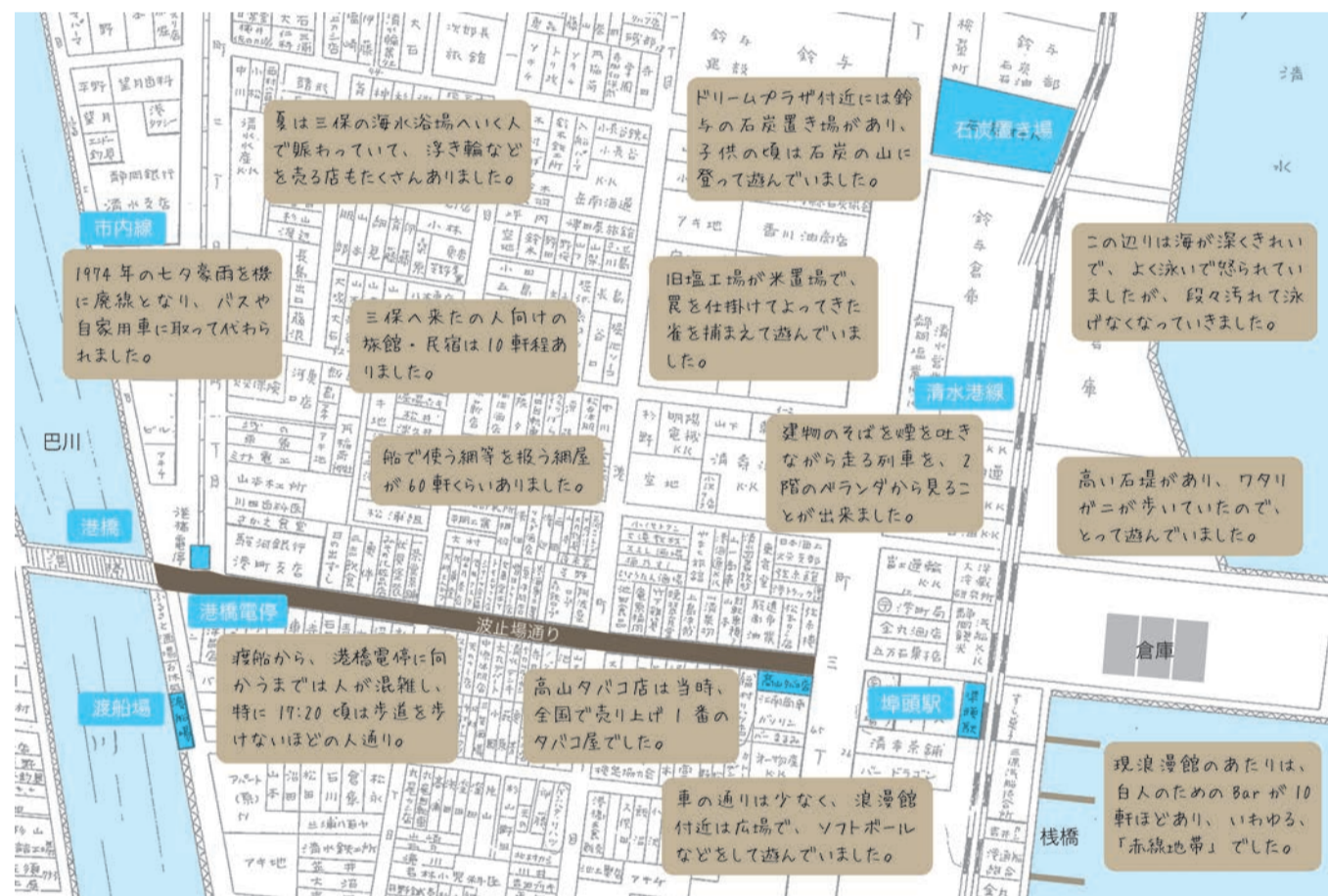
波止場通りヒアリング調査

みなとを知る・魅力を見つける

かつて波止場、日の出地区の港湾労働者や三保の造船所等で働く人たちが賑わっていた波止場通り（現エスパルス通り）で働くの店主のみなさんから通りやかつての波止場の賑わいの様子についてお話を伺った。



▲店主のみなさんからのヒアリング風景



▲昭和30年代の波止場通りの様子（ヒアリングまとめ）

石蔵調査 / 巴川調査

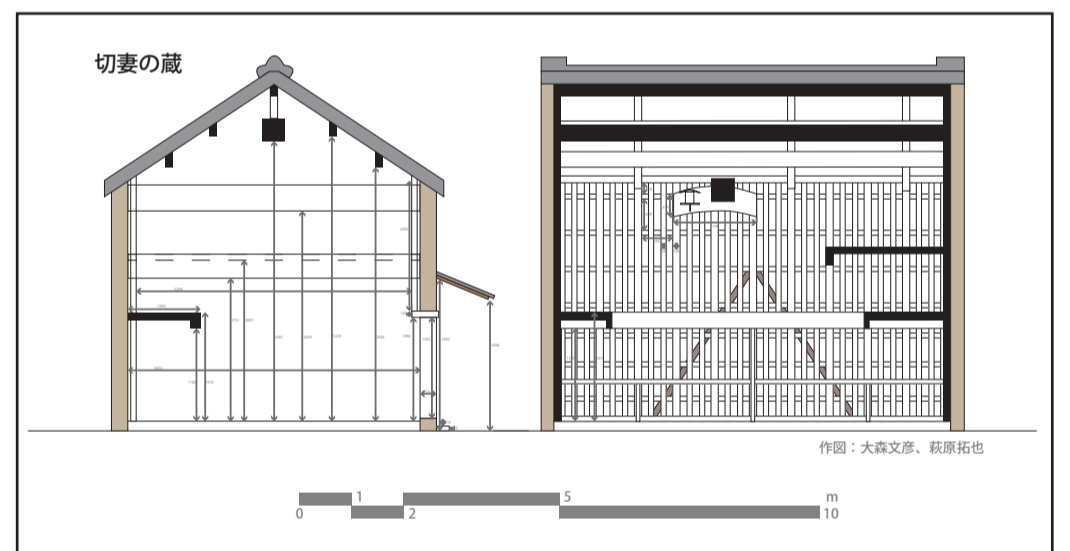
周辺との関係を考える

清水のもともと川湊があった巴川に関する調査や江戸時代から港と関係の深い廻船問屋に残る石蔵の実測調査といった地域の空間資源や周辺環境の調査を行った。

今後、清水港と周辺地域との関係や一体的な空間計画を考える際のきっかけとなると考えられる。



▲巴川での調査の様子



▲実測した石群の断面図

ミナトブンカサイ

みなとの魅力を発信する・理解を高める

地元市民の日の出地区やその周辺に対する理解を高め、今後の日の出地区の利活用について可能性を示すことを目指し、石造屋根倉庫群の前面道路を会場とした賑わい創出イベントを行った。地元の商店や大学生と協力した露店や音楽ステージ等の企画や、夜間には倉庫群のライトアップも行った。当日は、会場に1500人を超える人が訪れ、多くの方が、港の雰囲気堪能した。



▲イベント当日の石造倉庫群の様子



▲ミナトブンカサイ開催の報告パンフレット

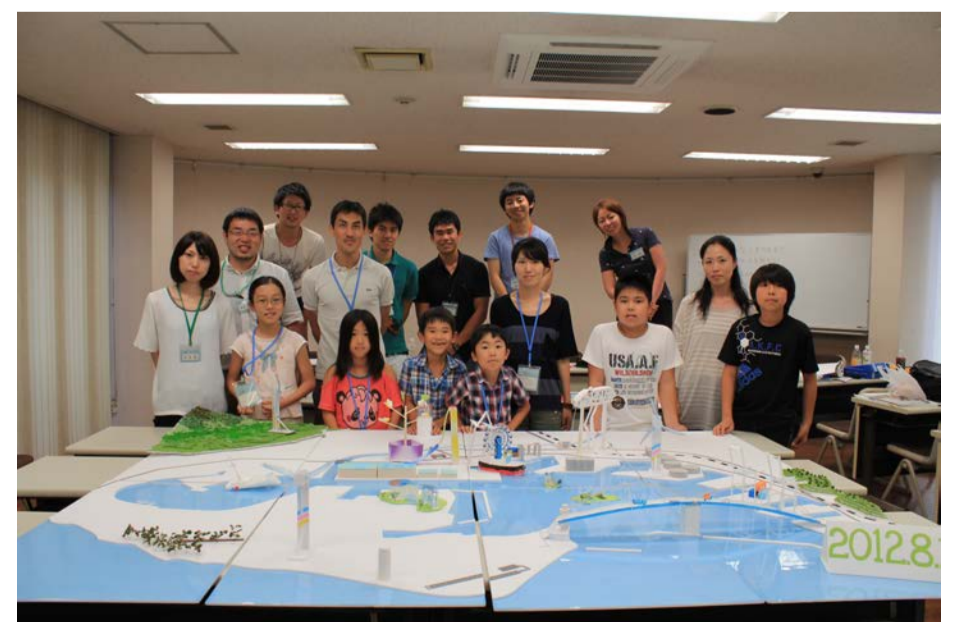
子ども向けWS

みなとに親しむ

地元の小学生と保護者を対象にした日の出地区のまちあるきとワークショップを行った。まちあるきでは、清水港の歴史と現状を実際に目で見て、その魅力を体感し、クイズとともに楽しく学んだ。ワークショップでは参加した児童がまちあるきや学んだことをもとに「自分たちの住まう清水のまちや港に、どんな施設・機能が欲しいか」を自由に考え、清水PJメンバーと共に模型を作成した。



▲みなとあるき様子



▲完成した模型の前で記念撮影

今度の活動

2012年度までの活動で、一時的な港の空間活用を提案することができたが、港湾の再生に向けては日常的な利用を定着させること、地元の方々の力を引き出すことが必要である。今後は2013年3月に行った港湾施設の活用事例調査を参考にしながら、石造倉庫群や県営上屋等の空間資源の日常的な利用に向けて、地元団体・大学と連携しながら活用提案・活用実験を行う。

空間資源の利活用に向けて



▲NPOを主体とした大分港の再生事例